

2025年度 愛知学泉短期大学シラバス

シラバス番号	科目名	担当者名	実務経験のある教員による授業科目	基礎・専門別	単位数	選択・必修別	開講年次・時期
37310	介護初任者研修課程Ⅳ Long-term care staff beginner training courseⅣ	木村典子、近藤美香、兵藤 翠			2	選択	1年、2年後期
科目の概要							
介護技術の根拠となる人体の構造や機能を踏まえて、かつ、必要なコミュニケーションをとることを認識して安全な清潔、排泄、休息の援助が実施できる知識・技術が修得できるようにしていきます。(DP②④) また、最期まで、尊厳を保持した看取りケアについて考えることができるように授業を展開していきます。介護職員初任者研修課程の資格の取得、将来、介護の現場で働いていくために、必要となる知識・技能の修得を目指していきます。(DP②③④) 学修過程を通して、建学の精神、社会人基礎力、pisa型学力の修得を目指していきます。(DP①②③④) ★医療現場、介護現場での実務経験のもと、利用者、療養者の状態に即した介護技術の展開をしていきます。							
学修内容				到達目標			
① 様々な整容の援助(洗髪、洗顔、清拭、足浴、手浴、部分清拭、衣類の選択・交換)を学ぶ。 ② 恥辱心への配慮した排泄の技術を学ぶ。 ③ 睡眠のメカニズムと安眠への援助を学ぶ。 ④ 最期まで尊厳ある死が迎えられる看取りのあり方を学ぶ。 ⑤ 相手の立場にたったコミュニケーションをとり方について学ぶ。 ⑥ 介護過程の構成要素となる知識を学び、事例をもとに、情報を整理し、アセスメント、計画立案について学ぶ。 ⑦ 介護現場での実習を通して、介護の対象の理解を深め、介護技術のスキルを高める。				① 対象にあった整容を選択し、提供できる技術を修得することができる。(DP①②③④) ② 恥辱心への配慮した排泄の技術を修得することができる。(DP①②③④) ③ 心身の休息がとれる睡眠の援助を修得することができる。(DP②③) ④ 最期まで尊厳ある死が迎えられる看取りケアについて、説明することができる。(DP①②③④) ⑤ 相手の立場にたったコミュニケーションをとり介護技術を提供することができる。(DP①②③④) ⑥ 介護過程のサイクルを活用し、事例の介護の展開ができる。(DP②③④) ⑦ 実習を通して、介護職の仕事について理解する。(DP①②③④)			
学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素		学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例					
前に踏み出す力	主体性	技術練習に取り組んでいる。 必要な知識についてさらに深めた理解するために、教科書文献を使って、自己学習ノートを作成できる。					
	働きかけ力						
	実行力	目標を設定して、最後まで、知識習得のために、最後まで、やりぬくことができる。					
考え抜く力	課題発見力	援助者体験、介護者体験を踏まえて、技術を探求することができる					
	計画力						
	創造力	課題を考えると、自己の固定観念にとらわれることなく、文献を活用したり、他者からの意見を取り入れ、考えることができる。					
チームで働く力	発信力	グループで話し合った結果をパワーポイント・資料を作成し、発表原稿を準備し、発表できる。					
	傾聴力	グループワークで、人の意見を確認し、さらに自分の意見がのべることができる。					
	柔軟性						
	状況把握力						
	規律性	遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動せず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。 欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。 介護技術を行うのに適切な恰好で行うことができていた。(髪、爪、くつ、ズボン)					
	ストレスコントロール力						
テキスト及び参考文献							
テキスト：長寿社会開発センター介護職員初任者研修テキスト 三巻 参考文献：なし							
他科目との関連、資格との関連							
他科目との関連：介護職員初任者研修Ⅰを基礎として、技術を積み重ねていきます。介護職員初任者研修Ⅰの履修が必要となります。 資格との関連：介護職員初任者							
学修上の助言				受講生とのルール			
実技を行うにあたり、こころと身体の基礎的な知識が必要なため教科書、配布したプリントにて復習を行うこと。 筆記試験は生活援助技術の根拠について問います。これは、技術の原理・原則にあたります。 実技試験は原理・原則を踏まえて行っているかをチェックします。				●授業を欠席したら、欠席分の課題を出して、補充授業を行います。欠席はしないこと。 ●介護職員初任者の資格の取得には、評価が「良」以上あること。 ●授業中の私語は慎み、積極的に授業に参加すること。配布プリントや資料は講義ノートに合わせてまとめておくこと。覚えることが多いので、こまめに資料を読んで授業内容を整理すること ●実技を行うため、長髪は縛り、動きやすい服装が必要となります。			

【評価方法】

評価対象	評価方法		評価の割合	到達目標				各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント
学修成果	学期末試験	筆記（レポート含む）・実技・口頭試験	20	①	✓	⑥	✓	筆記試験は生活援助技術の根拠について問います。これは、技術の原理・原則にあたります。 ・排泄の援助 ・終末期ケア ・清潔の援助 ・衣生活への援助 ・睡眠への援助 ・介護過程
				②	✓	⑦		
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
	平常評価	小テスト	10	①	✓	⑥	✓	・毎回の小テストの点数を平均して判定する。 ①授業内容を理解できているか確認する。 ②穴埋め問題と簡単な分析を中心に出題する。 ・出題範囲は、各時点までの授業で学習した内容とする。
				②	✓	⑦		
				③	✓			
				④	✓			
				⑤	✓			
		レポート	30	①		⑥	✓	・睡眠のメカニズム 高齢者の睡眠の特徴、よいよい睡眠を導くために満つようなこと。最近の研究成果に戻つきおこなう ・排泄のメカニズム、高齢者の特徴 ・介護過程の展開の事例(脳梗塞、認知症) ・介護実習の実習記録
				②	✓	⑦	✓	
				③	✓			
				④				
				⑤				
		成果発表（プレゼンテーション・作品制作等）	30	①	✓	⑥		pisa型学力 事例をもとに、原理原則、対象にあったコミュニケーションができて いるか評価していく。 実技は原理・原則を踏まえて行っているかを評価表をもとにチェック します。 利用者への声かけ、排泄の援助(恥辱心への配慮) 寝衣交換(脱健着患) 体位変換(慣性の法則、重心、小さくする) 車いす移動(点検、適切な設置、負担の少ない移動)
				②	✓	⑦		
				③				
				④				
				⑤	✓			
学修行動	社会人基礎力 (学修態度)	10	①	✓	⑥	✓	(主体性) ・技術練習に取り組んでいるかをみていきます。 ・必要な知識についてさらに深めた理解するために、教科書文献を使って、自己学習ノート作成の状況をみます。 (実行力) ・目標を設定して、最後まで、知識習得のために、最後まで、やりぬくことができる。 (課題発見力) ・援助者体験、介護者体験を踏まえて、技術を探求することができる。 (創造力) ・課題を考えると、自己の固定概念にとらわれることなく、文献を活用したり、他者からの意見を取り入れ、考えることができる。 (発信力) ・グループで話し合った結果をパワーポイント・資料を作成し、発表原稿を準備し、発表できている。 (傾聴力) ・グループワークで、人の意見を確認し、さらに自分の意見がのべることができる。 (規律性) ・遅刻、無断欠席など、学修意欲欠如をきたす行動せず、授業が円滑に進行するようルールを守ることができる。 欠席した場合は、欠席届を提出し、フォローレポート課題を行う。 ・介護技術を行うのに適切な恰好で行うことができる。(髪、爪、くつ、ズボン)	
			②	✓	⑦	✓		
			③	✓				
			④	✓				
			⑤	✓				
			総合評価割合		100			

【到達目標の基準】

到達レベルS(秀)及びA(優)の基準	到達レベルB(良)及びC(可)の基準
秀 1. 実践可能な援助を立案し、知識にもとづいて工夫し、説明でき、模擬高齢者に、安心・安全に介護技術(排泄の援助、寝衣交換、清潔の援助)が提供できる。 2. 模擬高齢者役を通して、他のメンバーへ、介護技術について、アドバイスができる。 3. 睡眠の援助、終末期ケアについて、わかりやすく、資料を作成して、発表することができる。他者に事前にアドバイスを得て、さらに付け加えをして行うことができる。 3. 授業の到達目標から自身の習得しなくてはいけない知識を理解し、自己学習ノートをわかりやすくまとめ、活用できる。教科書、文献など、様々な資料を使って、計画、援助技術が実践できる。 4. 筆記試験が90%以上の正解率である。 優 上記の1, 2ができていて、総合評価で80%以上である。	良 1. 模擬高齢者へ援助が原理原則を踏まえて、提供できる。(排泄の援助、寝衣交換、清潔の援助) 2. 模擬高齢者へ援助をする際、高齢者の特徴を考えた、声かけができる。 3. 自己学習ノートをまとめることができる。 総合評価で70%以上である 可 1. 2の内容が助言のもと、資料を作成でき、発表することができた。 総合評価で60%以上である。

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
1	9-6 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護日常生活のなかでの整容の意味を理解する。整容行動の基礎的知識を学び、実践する。 (担当 木村・近藤)	小テストと解説 講義・演習 グループワーク 発表	日常生活のなかでの整容の意味を述べることができる。	(復習) 日常生活のなかでの整容の意味、整容の種類をまとめる。 (予習) 左片麻痺を想定して、衣類の着脱をして、その時考えたことをまとめる。	90	主体性 実行力 規律性
2	9-6 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 9-7 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護衣類着脱に関する基礎知識を学び、実践する。 (担当 木村・近藤)	小テストと解説 講義・演習 フードバック:技術到達評価表に基づき、コメントする。 グループワーク 発表	衣類着脱を実践することができる。	(復習) 空き時間を利用して、介護実習室で技術練習く衣類の着脱 (予習) 入浴に関する福祉用具を調べる	90	主体性 実行力 課題発見力 規律性
3	9-7 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護清潔を保持することの意味を理解する。 入浴、部分的な清潔保持の支援方法、入浴に関する福祉用具の使用方法を学ぶ。 羞恥心に配慮した入浴介助の実践。(担当 木村・近藤)	小テストと解説 講義・演習 フードバック:技術到達評価表に基づき、コメントする。 グループワーク 発表	対象に合わせた整容の方法を理由をつけて述べるができる。 羞恥心に配慮した入浴介助の実践できる。	(復習) 空き時間を利用して、介護実習室で技術練習 (予習) 麻痺のある人の入浴方法をまとめる	90	主体性 実行力 課題発見力 規律性
4	9-7 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護グループごとに清潔保持の介護実技を実践する。 (清拭、洗面) グループごとに清潔保持の介護技術を実践する。 (手浴、足浴、爪の手入れ) (担当 木村・近藤)	小テストと解説 講義・演習 フードバック:技術到達評価表に基づき、コメントする。 グループワーク 発表	寝たままでの清拭、洗面の援助ができる。 安全な手浴、足浴、爪の手入れができる。	(復習) 空き時間を利用して、介護実習室で技術練習 寝たままでの清拭、洗面の援助をまとめる。 適切な湯の温度を考える。 (予習) 爪の切り方を調べる	90	主体性 実行力 課題発見力 規律性
5	9-7 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護グループごとに清潔保持の介護技術を実践する。 (洗髪) (担当 木村・近藤)	小テストと解説 講義・演習 フードバック:技術到達評価表に基づき、コメントする。 グループワーク	寝たままでの洗髪を実施できる。	(復習) 空き時間を利用して、介護実習室で技術練習 (予習) 足浴の効用を調べる (復習) 寝たままでの洗髪援助をまとめる。 (予習) 自宅でシュミレーションしてみる。洗面所での洗髪(左麻痺を想定して) 自律神経との関連で	90	主体性 実行力 課題発見力 規律性
6	9-10 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護排泄に関する基礎知識を理解する。 排泄の支援方法、排泄における環境、福祉用具の使用方法を学ぶ。 (担当 木村・近藤)	小テストと解説 講義・演習 グループワーク 発表	排泄に関する基礎知識を理解することができる	(復習) 排泄に関する人体の解剖生理をまとめる。 (予習) 排泄の仕組み、尿失禁の種類と援助をまとめる。	90	主体性 実行力 課題発見力 規律性
7	9-10 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護グループごとに排泄の介護技術を実践する。 (トイレ介助) (福祉用具としてのポータブルトイレの種類)グループごとに排泄の介護技術を実践する。 (オムツ介助、陰部洗浄) (担当 木村・近藤)	小テストと解説 講義・演習 グループワーク 発表	技術到達評価表に基づき、コメントする。 グループワーク 発表	(復習) 空き時間を利用して、介護実習室で技術練習 (予習) 大学、公共施設にあるトイレの構造を観察、使いやすさ、安全性	90	主体性 実行力 課題発見力 規律性
8	9-11 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護睡眠に関する基礎知識を理解する。 睡眠の支援方法、環境、福祉用具の使用方法を学ぶ。 (担当 近藤)	小テストと解説 講義・演習 技術到達評価表に基づき、コメントする。 グループワーク 発表	睡眠障害について述べることができる。睡眠の環境調整が述べられる。安楽な体位、睡眠環境を整えることができる	(復習) 睡眠のメカニズムをまとめる。睡眠の支援方法をまとめる。 (予習) スタンフォード大学西野精治先生のいう睡眠負債と解消法を調べる	90	主体性 実行力 課題発見力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力

週	学修内容	授業の実施方法	到達レベルC(可)の基準	予習・復習	時間 (分)	能力名
9	9-12 死にゆく人に関 したところとからだの しくみと終末期介護 終末期に関する基礎知 識を理解する。 終末期ケアについて学 ぶ。 (担当 木村・近藤)	小テストと解説 講義・演習	終末期に起こってくる 心身の変化を説明でき る。心身の変化に基づ き、終末期のケアを述 べることができる。	(復習) 空き時間を利用して、 介護実習室で技術練習事例を読 んで、考えをまとめる。 (予習) おむつの種類と適用について調 べる (予習) Lunney, Lynnの示す疾患進行の道 筋について調べ、わかりやすく まとめる。 脳梗塞の症状、ケアについてま とめる。	90	主体性 実行力 課題発見力 規律性
10	9-13 介護過程の基礎 的理解 介護過程とは 高齢者 二人暮らしの事例より 考える 事例 脳梗塞によって 片麻痺がある高齢者の 事例の展開	講義 グループワーク 発表(口頭と紙面にて コメントする) (木村、兵藤)	介護過程の必要性につ いて説明できる。 事例にて、介護過程の 展開ができる	(復習) 脳梗塞の事例 の発表を振り返り、不 足の知識を調べ、追記 できる。 (予習) 認知症の特徴、ケアに ついて調べる。	90	主体性 実行力 課題発見力 規律性
11	9-14 総合生活支援技 術演習 介護過程の展開 認知 症高齢者グループホー ムの入所間もない徘徊 のある高齢者	小テストと解説 発表 グループワーク 発表 (兵藤)	事例にて、介護過程の 展開ができる。	(復習) 介護過程の認 知症の事例の発表を振 り返り、不足の知識を 調べ、追記をする。	90	主体性 創造力 発信力 傾聴力
12	9-14 総合生活支援技 術演習 介護過程の展開 脳梗 塞で老々介護となっ て事例	小テストと解説 発表 グループワーク 発表 (兵藤)	事例にて、介護過程の 展開ができる。	(復習) 介護過程の事 例の発表を振り返り、 不足の知識を調べ、追 記をする。	90	主体性 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
13	介護実習 介護現場で 指導者の指示のもと、 実習を行う	10実習 (木村)	実習先の介護施設の機 能の役割を実習の経験 を踏まえて説明でき る。 介護施設を利用してい る高齢者の特徴を説明 できる 介護の役割を説明でき る	(復習) 介護施設の機能 の役割について見直 す。認知症のケアにつ いてまとめる	90	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力
14	10-1振り返り 10-2就業への備えと研 修終了後における継続 的な研修 実習の振り返り 自己研鑽	発表演習 フードバック:技術到 達評価表に基づき、コ メントし、点数化する	経験した実習内容、学 んだことをわかりやす く説明できる。	(復習) 介護技術の原理 原則を見直す。(移 動、清潔、排せつの援 助) (予習) 事例の高齢者の 援助技術方法を計画す る	90	主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 創造力 発信力 傾聴力 規律性
15	排泄、衣類交換の技術 確認をします。 (木村・近藤)	事例に基づき計画して きた移動、排泄、清潔 の援助を実施し、修正 を加える	根拠がある排泄、衣類 交換の技術ができる	(復習) 技術試験の振 り返りをする。 (予習) 筆記試験に備え て勉強をする。	90	主体性 実行力 課題発見力 発信力 傾聴力 規律性

能力名：主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性 ストレスコントロール力